

製品・サービス動向-国内**■エイネット、7年ぶりのメジャーバージョンアップ、コーデックを全面刷新し H.265 に対応するなど PC でもモバイルでも専用機並みの画質/音質を実現**

(1月24日)

エイネット株式会社 (<https://www.anets.co.jp/>) (東京都千代田区) は、同社が提供しているテレビ会議/WEB 会議システム「FreshVoice」において、7年ぶりのメジャーバージョンアップを発表。コーデックを全面刷新し大幅な性能の向上を果たした。販売開始は1月25日から。

2002年に最初の製品を発表し、2009年に独自のコーデックを搭載して世界で初めてフル HD に対応したソフトウェアテレビ会議システムである FreshVoice は、7年ぶりのメジャーバージョンアップとなる。

今回のバージョンアップでは、H.264SVC、H.264AVC に加えて、オプションで H.265 への対応も行った。高画質モードでは従来の最高 1080i から 1080p でのエンコード/デコードが可能となった。ただし、1080p への対応はサーバー導入タイプのみ。ASP タイプは最高 720p となる。

H.265 は今後期待される 4K/8K の標準的なフォーマット。同社では、今回のコーデック変更によって、将来的な 4K/8K への対応も計画しているという。

従来、これらの高解像度映像の圧縮/伸張には、専用のハードウェアが必要とされていたが、FreshVoice の新バージョンでは最新のソフトウェア映像/音声圧縮技術の採用によって、PC の負荷を大幅に低減させることに成功し、専用のハードウェアを不要にしたという。

また、機能面でも動画共有を標準で装備するなど従来のこのレベルの製品としては考えられなかった低コストを実現したとしている。

さらに、コーデックの全面刷新に合わせて、ARM アーキテクチャーを採用する iOS デバイスへの最適化を行った。この最適化により、PC 版だけでなく、iOS デバイスの利用時においても、大幅なパフォーマンスの向上を実現している。

具体的には、iPad 利用時は、PC と同様に最大 16 分割の会議参加者表示が行えるようになるなどの使い勝手の向上のほか、iPhone 利用時でも、より滑らかな映像や、レンジが広く、途切れのない音声など、クオリティも大幅に向上したとしている。

ソフトウェア MCU による安定した通信を特徴としてきた FreshVoice は、今回のバージョンアップによって、ソフトウェアタイプならではの高性能と相まって、従来の専用機型のテレビ会議システムの多くを性能と機能において上回ったとしている。

エイネットは、今回のバージョンアップによって、高価な専用機型テレビ会議システムからローコストなソフトウェアタイプへの置き換えを促進し、大企業だけでなく、あらゆる企業での遠隔会議導入を可能にすることで、日本の会議文化を変えていきたい考え。

提供する製品名は、「FreshVoice」および「FreshVoiceASP」。価格は1ユーザ3,000円から。

■キャノン IT ソリューションズ：Web 会議システム「IC³」のクラウドサービス提供開始

(1月17日)

キャノン IT ソリューションズ株式会社 (<https://www.canon-its.co.jp/>) (東京都品川区) は、

Web 会議システム「IC³（アイシーキューブ）」のクラウドサービスを 1 月 17 日より発売。

IC³のクラウドサービス



IC³のクラウドサービス（キャノンITソリューションズ）

IC³は、キャノン IT ソリューションズで開発・販売している Web 会議システム。音声品質の安定性、モバイル環境での使い勝手の良さが特長となっている。今回のクラウドサービス開始により、この特長をより手軽に利用することが可能になったという。

特長としては 3 点ある。(1) IC³の帯域自動調整機能は、映像・音声・画面共有の品質を細かく設定できるところが特徴で、ユーザのネットワーク環境に余計な負荷をかけずに品質を確保できるとしている。(2) 無駄な音声データを削減する独自の処理技術（特許出願中）により効率的なデータ伝送を行うことで、発言の際に互いに声がぶつかることが多い、多人数のディスカッションでも安定した品質を実現する。

(3) このクラウドサービスは社内インフラとしての利用を想定している。仮想ルームやユーザ ID をいくつでも作成することができるため、ユーザの利用状況に合わせた柔軟な会議運営が可能となっている。

キャノン IT ソリューションズは、IC³をワークスタイル変革、在宅勤務促進、コスト削減、BCP 対策を検討している企業に提案し、2020 年に売上 3 億円（関連売上を含む）を目指す。

価格は、初期費用が 10 万円から。年間費用は 100 万円からとなっている。なお、年単位の長期契約を通

して、一層の社内インフラの一部として利用されるよう、企業ロゴや社名などの画面デザインを変更するサービスを提供する。

ビジネス動向-国内

■いい生活：IT 重説を見据え、NTT アイティの Web 会議クラウド「MeetingPlaza」の販売を開始

(1 月 16 日)

株式会社いい生活 (<http://www.e-seikatsu.info/>)（東京都港区）は、NTT アイティ株式会社 (<http://www.ntt-it.co.jp/>)（横浜市中区）が提供する Web 会議クラウド「MeetingPlaza（ミーティングプラザ）」の販売代理店業務を 1 月 16 日から開始。

いい生活は、不動産会社向けのシステム開発に特化しており、不動産業務をフルカバーするワンストップソリューションのシステムを提供している。2000 年 1 月設立。東京証券取引所 市場第二部上場。

いい生活と NTT アイティは現在、国土交通省が行っている IT 重説に関する社会実験およびその施行開始（※2017 年度以降に見込まれている。）に向け、両社は 2015 年 9 月より業務提携契約を締結し、販売提携および不動産向け新機能検討に取り組んできた。

提携以来、販売提携の一環として、国土交通省が行っている「IT 重説社会実験」参加会社（※2017 年 1 月現在 303 社。）に対し MeetingPlaza を月額無料で提供し、サポートやユーザミーティングを行うことで IT 重説の実施を支援してきた。

今後の展開に向け販売提携の範囲をより拡大し、いい生活による MeetingPlaza 販売代理業務を開始した。不動産業の業務効率化および IT 重説の推進を支援していくとしている。

参考：国土交通省-IT を活用した重要事項説明に係る社会実験

http://www.mlit.go.jp/totikensangyo/const/sosei_const_tk3_000112.html

製品・サービス動向-海外

■シスコシステムズ社：オールインワンのクラウド型会議用製品「Cisco Spark Board」と「Cisco Spark Meetings」を発表

(1月24日)

シスコシステムズ社 (<http://www.cisco.com/>) (米国・カリフォルニア州) は、最新のクラウドやデバイス技術などを使い会議の生産性を向上させる、オールインワンのクラウド型会議用製品「Cisco Spark Board」と「Cisco Spark Meetings」を発表した。



Cisco Spark Board (シスコシステムズ)

Cisco Spark Board は、編集ができるインタラクティブなデジタルホワイトボード(55インチ)(※今年中には70インチモデルも予定とのこと。)として利用できるとともに、ビデオ会議も行える、ワイヤレス型のプレゼンテーション装置。ワンクリックで会議を始めことができ、会議上の資料などの共有は、BluetoothやWiFi、ネットワーク接続を使用することなく、シスコの超音波ワイヤレスペアリング技術 (ultrasound wireless pairing technology) によって、PC、Mac、タブレット、スマートフォンなどからも簡単に操作できるようになっている。

また「Cisco Spark app」があれば、遠隔地の参加者も問題なく会議に参加することが可能となっている。ホワイトボードへの書き込みをしながらビデオ会議も行える。会議内容はチーム全員が共有するスペースに自動保存され、後で終了した時点からまた再開することもできるようになっている。

その他の特徴として、暗号化技術によって、コンテンツを安全に共有し編集、保存できるとしている。また、4K カメラ、マイクアレイ、ボイストラッキング技術などを組み合わせた製品のため会議室の様子はシアター品質の音声や映像でお互いに会議が行えるという。

一方、Cisco Spark Meetings は、“ポケットに入る”携帯版の Cisco Spark Board という。Cisco Spark Board を所有していなくても、Cisco Spark app があればチームのメンバーとホワイトボードの機能を使ったコンテンツの共有や編集が行える。

“ワンタッチ・スタート・ミーティング”が特長。チームによる会議のスケジュールをすると、メンバーが集い、アジェンダを設定し、資料を共有し、チャットをやり取りし、議事を進めていくバーチャルな“チームスペース”を作成する、会議中の内容は記録され Cisco Spark スペースに簡単に保存される、そして会議後のフォローアップやコメントの投稿など、その会議にとって必要なものが自動で用意されそのスペースの中で完結できる仕組みを提供している。

会議の中でより多くのことを達成することがこの製品の狙い。そのため、会議参加者がどのような行動をするかといった、活動ベースのユーザエクスペリエンス (activity-based user experience) の観点から開発されているようだ。

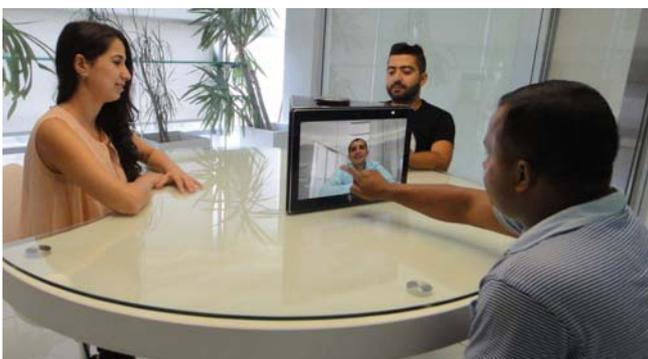
■SillexPro 社：ビデオ会議に“センター・オブ・テーブル”というコンセプトを新たに取り入れ、ビデオ会議のユーザエクスペリエンス向上にフォーカスしたソリューションを提供、ビデオ会議のハドルセグメントに新風を吹き込む

(遠隔取材：2016年12月9日)

SillexPro 社 (<http://www.sillexpro.com/>) は、ビデオ会議に“センター・オブ・テーブル”というコンセプトを新たに取り入れ、ビデオ会議のユーザエクスペリエンス向上にフォーカスしたソリューション「Sillex PTE」シリーズを北米や EMEA、APAC (一部) において展開している。ビデオ会議にとどまらず通常の会議でも利用できる製品。



Sillex PTE Quattro (SillexPro)



Sillex PTE Trio (SillexPro)

SillexPro 社は、米国シカゴとレバノンのベイルートにセールスや R&D の拠点を置く 2015 年設立の会社。

同社 CEO Ronald Hajj 氏は、SillexPro 社を設立する前は、中東のビデオ会議・UC ディストリビュータの FVC 社において 10 年以上、チーフ・イノベーション・オフィサー (CIO) やジェネラルマネージャーなどの要職を歴任。その前は、レバノンのシステムインテグレータ Libatel 社など、ユニファイドコミュニケーション分野での長年の経験と実績を持つ。

SillexPro 社を設立したのもほかでもない。Ronald Hajj 氏のビデオコラボレーションやコミュニケーションにおけるユーザエクスペリエンス向上へのこだわりだった。同氏にはレバノンと日本をビデオ会議でつなぎ取材した。

「本来の会議というのは、参加者がテーブル越しに膝を突き合わせて向き合い、相手の表情を見ながら議論を行うものだ。しかし、ビデオ会議を会議室で行うことを想像してほしい。テーブルに着座している参加者全員の視線が向かっている方向はディスプレイだ。これではお互い全員の顔や表情が見えない。特に後方の参加者は画面の話者の顔はあまり見えないだろう。本当の生産性の高い議論はできるのだろうか。これをビデオ会議においても実現したいというのが SillexPro 社を立ち上げた理由だ。」(Ronald Hajj 氏)

そこで同社は“センター・オブ・テーブル (Center of Table)”というコンセプトを具現化した Sillex PTE を開発。製品をテーブルの中央に置くことで、ビデオ会議の参加者全員の視線を会議テーブルの中央に集める効果がある。そのため、壁に固定されているビデオ会議用ディスプレイの方向に顔を向ける必要もなく、椅子にゆっくりと快適に座った状態で、会議室の参加者も遠隔地の参加者もお互いの表情 (アイコンタクトも含め) をはっきり見ながら自然に議論ができるようになるため、ビデオ会議のユーザエクスペリエンスの向上が期待できるとしている。

Sillex PTE シリーズは、マルチサイドのインタラクティブホワイトボード機能とアノテーション機能を

持ったワイヤレスプレゼンテーションシステム。ベースに Intel i7 に Windows10 を走らせたオールインワンのビジュアルコラボレーションツールである。

ディスプレイ（17.5 インチ）はタッチパネル、スピーカーフォンにはゼンハイザー製を採用、HD カメラ（それぞれの側面に内蔵）、HDMI や LAN 端子などを装備している。



4 画面分割 (SilexPro)



パノラマビュー (SilexPro)

提供している製品は、「Silex PTE Duo」（2～4 名向け）、「Silex PTE Trio」（3～6 名）「Silex PTE Quattro」（4～8 名）の 3 モデルを提供している。平均的な、会議室にあるテーブル（正方形・円形・長方形）と参加者数、参加者とディスプレイとの間の距離から想定し製品のフォームファクターを決めている。

Silex PTE の肝の部分は、同社が提供しているソフトウェアである「Silex PTE control」。このソフトウェアは、GUI に優れ、各種操作のメニュー画面やビデオ会議やデスクトップ・資料共有などのランチャーとして

の機能を提供している。

その中で、ビデオ会議については、たとえば「Skype」「Zoom」「Avaya Equinox」「Vidyo」、WebRTC など Windows10 対応であればどのソフトウェアでも良い。いずれかをあらかじめインストールしていれば Silex PTE のメニューからタッチパネルで選択することで該当のソフトを開くことができる。

加えて、資料共有やアノテーション（資料への書き込み）機能も同じだ。iPhone、iPad、Mac PC (Airplay 使用) や Android やマイクロソフトの Windows Phone、タブレット、PC (Miracast) の画面の共有なども行えるようになっている。

ディスプレイが壁の位置から会議テーブルの中心に置かれることで、システムの周りに座っている参加者をどの画面からも、また資料共有も書き込んだものも同じ大きさで見えるようになっており、音も明瞭に聞けるようになっている。なお收音は半径 4m をカバーすることが可能。

「同じ会議室の参加者も遠方の参加者もこれにより同じ視認性でビデオ会議が行える環境が整う。壁にあるディスプレイが見つらい、スピーカーからの声が聴きづらい、といったような従来のビデオ会議にまつわる課題をこのフォームファクターで解決できる。」

(Ronald Hajj 氏)

昨今、ビデオ会議では、小規模会議室向けのビデオ会議製品が増えてきているが、それらのほとんどは従来のビデオ会議の行い方（壁に固定されているディスプレイ）でビデオ会議を行う方法を取っている。それに対して、SilexPro 社は、このハドルセグメントに、センター・オブ・テーブル (CoT) という新しいコンセプトを投入した形になる。

「我々は、ハドルセグメントでは、CoT がメインストリームになると確信している。Infocomm などさまざまな展示会でこれまで紹介してきたが、強い関心を示していただいている。」 (Ronald Hajj 氏)

今後は、日本や中国などアジア太平洋地域での販売を見込んでいるという。そのため、同社の製品を展開できるローカルパートナーを現在募集しているようだ。

ビジネス動向-海外

■Zoom Video Communications 社：シリーズ D により 1 億ドルの資金調達を実施、Zoom 4.0 も発表

(1月31日)

クラウド型テレビ会議サービスのベンチャーZoom Video Communications 社 (<https://zoom.us/>) (米国・カリフォルニア州) は、シリーズ D により 1 億ドルの資金調達を実施したと発表。資金調達に応じたのは、Sequoia を初め、Emergence Capital、Jerry Yang's AME Cloud Ventures、Qualcomm Ventures の各社。

今回の 1 億ドル資金調達の前には、Emergence Capital、Horizons Ventures、AME Cloud Ventures、Qualcomm Ventures 各社などから合計 4,550 万ドル資金調達の実績がある。2015 年のシリーズ C による資金調達によって、顧客社数が 45 万社へ、5,800 の教育機関へ Zoom 採用が広がったという。それに伴い、年間会議時間 (annual meeting minutes) は 150 億分に達した。2015 年から 2016 年にかけて 215% の伸びを示し、一日当たり 100 万人が Zoom 会議に参加したことになる。

Zoom 社によると、今回の Sequoia 社などからの支援により、バーチャルリアリティや AR (拡張現実) 関連の開発、Zoom デベロッパープラットフォームの構築、セールスとマーケティングの強化による海外ビジネスの拡大などを行っていく計画。

また、今回の資金調達に合わせて、「Zoom 4.0」をリリース。開発者向けの新「Zoom Developer Portal」や「Zoom MobileRTC platform」の提供、アンドロイド向けの「Zoom Room Controller app」、ビデオウェビナーの Facebook Live や Youtube への配信など豊富

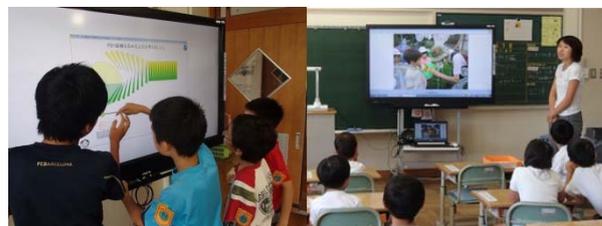
な機能が追加されている。

導入・利用動向-国内

■パイオニア VC:静岡県三島市小中学校 21 校の全普通教室に「xSync Board」を導入

(1月23日)

株式会社ブイキューブ (東京都目黒区) グループのパイオニア VC 株式会社 (<https://pioneer.vcube.com/>) (東京都品川区) は、静岡県三島市が電子黒板「xSync Board (バイシンクボード)」を 364 台導入した、と発表した。



三島市立佐野小学校で、電子黒板「xSync Board」を利用した授業の様子 (パイオニア VC)

xSync Board は、小学校 14 校には 2015 年 8 月、中学校 7 校には 2016 年 8 月に、特別支援学級を含む全ての普通教室へ設置され、児童・生徒の効果的な学力育成に向けて、日常の授業での活用が進んでいるという。

今回の導入の主な決め手となったのは以下の 3 点。

(1) 外付けボタンによる簡単な操作。ICT が苦手な先生でも直感的に利用できる。(2) ペンだけでなく、指のタッチでも操作が可能。(3) 教室のカーテンを閉めることなく、明るい教室で利用できる高い視認性。

文部科学省が推進する「教育の IT 化に向けた環境整備 4 か年計画 (平成 26 年度～平成 29 年度)」に基づき、静岡県三島市 (<https://www.city.mishima.shizuoka.jp/>) では、教育への ICT 環境の整備に力を入れている。

日々の授業で全ての先生が使いこなすことができ、生徒の高い学習効果につながるよう、利用者である先

生へのアンケート調査も実施し、タブレット端末整備も見据えて、教室に導入する ICT 機器の選定が行われた。

結果、平成 27 年度までに市内全公立小学校 14 校、平成 28 年度には全公立中学校 7 校の特別支援学級を含む全ての学級に電子黒板と書画カメラを設置、併せて指導者用デジタル教科書も導入した。また、教員向けの電子黒板操作研修会を開催し、効果的な活用方法を研究し実践している。

導入後に実施された先生へのアンケートでは、導入から 1 年が経過した小学校の先生から「実際に使ってみると、使いやすく、児童・生徒の視点集中が行えている。デジタル教科書も併せて用いることで、より授業への興味も増している。」といった効果が出ているという。

Report

※CNAレポート・ジャパン橋本啓介による検証・取材レポート

■ブイキューブ：会議室設置型テレビ会議システム「V-CUBE Box」の設置・操作の“簡単さ”を検証する

<https://blog.vcube.com/evaluate-v-cube-box-by-cna-report-japan.html>

■ブイキューブ：V-CUBE Box と Polycom HDX8000 を接続し、テレビ会議と資料共有ができるのか検証（前編）

<https://blog.vcube.com/interoperability-between-polycom-hdx8000-and-v-cube-box-1>

■ブイキューブ：V-CUBE Box と Polycom HDX8000 を接続し、テレビ会議と資料共有ができるのか検証（後編）

<https://blog.vcube.com/interoperability-between-polycom-hdx8000-and-v-cube-box-2>

■パイオニア VC：“ものづくり”の現場を支える、遠隔コラボレーションシステム「xSync Prime Collaboration」取材レポート

<https://blog.vcube.com/xsync-prime-collaboration.html>

PR

(広告掲載順)

■ヤマハ株式会社

(USB スピーカーフォン FLX UC 500)

http://jp.yamaha.com/products/communication/revolabs/flx_uc_500/

■株式会社メディアプラス

(ビデオプラットフォーム Pexip Infinity、VMR 運用ツール VMR オペレータ)

<http://www.mediaplus.co.jp/products/Pexip/>

■株式会社ブイキューブ

(テレビ会議システム V-CUBE Box)

<https://jp.vcube.com/service/box/>

■日立ハイテクソリューションズ

(Vyopta ビデオコラボレーション解析・レポートサービス)

<http://www.hitachi-hightech.com/hsl/products/ict/hightech-vision/index.html>

※同社ビデオ会議ソリューションの情報を掲載したサイト。

Vyopta に関する情報は後日予定。

セミナー・展示会情報

<国内>

■失敗しない「Web 会議」、「テレビ会議」の選び方徹底解説セミナー ～ビジュアルコミュニケーションツールの選び方をデモを交えてご紹介～

日時：2月・3月

会場：東京都・大阪府・愛知県

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：

<https://jp.vcube.com/event/seminar/201606151900.html>

※その他セミナー情報：<https://jp.vcube.com/event/seminar/>

■ポリコム オンディマンド Webinar ポリコムのマイクロソフト連携紹介

第一回 Webinar(所要時間：31分)

「これまで以上のビジネスをポリコムでシンプルに実現」

第二回 Webinar(所要時間：41分)

「ポリコムとマイクロソフト SfB ソリューションのネイティブ連携 - 利点と実現方法」

第三回 Webinar(所要時間：34分)

「Office 365 環境におけるポリコムとマイクロソフト SfB ソリューションのネイティブ連携」

会場：オンラインで視聴

詳細・申込：

<http://www.polycom.co.jp/forms/microsoft/skype-for-business-webinar.html>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jp サイトの情報もご参照ください。

業界の動き

遠隔会議・UC 業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回（プレスリリースと取材に基づく記事）ですが、CNA レポート・ジャパン

では、業界の動きに関連した国内外の情報を日々配信・共有しています。よろしければご参照ください。

■フェイスブック（遠隔会議&UCトレンドワッチ）

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■Twitter（CNA レポート・ジャパン）

<https://twitter.com/cnarjapan>

■メーリングリスト（dte-forum）

<http://cnar.jp/cna/dteforum-ml.html>

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2016年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

CNAレポート・ジャパン 2017年1月31日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp